

第59回

奈良市クリーンセンター建設計画策定委員会

日 時：令和4年9月7日（水）

午後3時30分から午後5時00分まで

会 場：奈良市役所本庁舎 中央棟3階災害対策本部室

次 第

開 会

1. 報告事項

前回策定委員会以降の経過について（資料1）

2. 議事

今後の方向性について（資料2）

3. その他

閉 会

第59回 奈良市クリーンセンター建設計画策定委員会 会議録

開催日時	令和4年9月7日（水） 午後3時30分から午後5時00分まで		
開催場所	奈良市役所 中央棟3階 災害対策本部室		
出席者	委員	渡邊信久 委員長、田中啓義 副委員長、安田美紗子 副委員長 梅林聰介 委員、鍵田美智子 委員、清水順子 委員、 元島満義 委員、森住明弘 委員、森田一成 委員 山口裕司 委員、吉岡正志 委員、吉田隆一 委員 【計12人出席】	
	事務局	仲川市長、向井副市長、矢倉環境部長、山口環境部次長、 前田環境部参事、稲場クリーンセンター建設推進課長、 西川クリーンセンター建設推進課課長補佐 他	
開催形態	公開（傍聴人10人）	担当課	環境部クリーンセンター建設推進課
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長及び副委員長の選任 2 報告事項 前回策定委員会以降の経過について 3 議事 今後の方向性について 4 その他 		
決定又は 取り纏め 事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長に渡邊委員、副委員長に田中委員及び安田委員を選任した。 2 委員会の位置づけについて 		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長及び副委員長の選任 <ul style="list-style-type: none"> ・委員長に渡邊委員、副委員長に田中委員及び安田委員が選任された。 2 報告事項 前回策定委員会以降の経過について <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より「報告事項 前回策定委員会以降の経過」について、資料1をもとに、以下の事項について説明 ① 奈良県北部地域におけるごみ処理広域化に関する合同勉強会の実施状況について ② 斑鳩町との協議について ③ 地元対応、土地所有者の皆様への取り組み状況について 			

3 議事 今後の方向性について

・事務局より「議事 今後の方向性」について、資料2をもとに、以下の事項について説明

- ① まちづくり拠点整備基本構想及び移転建て替えを選択した他市事例について
- ② 先進都市事例の紹介について
- ③ 奈良市が目指す施設について

4 その他

委員からの主な質疑・意見

【策定委員会について】

- ・当委員会の位置づけを明確にしてほしい。
- ・位置づけが宙に浮いたような委員会になっており、出てきた問題を協議する場になっているように思う。原点に戻るのが本来の策定委員会のあるべき姿ではないか。
- ・委員の皆さんの気持ちを一つにして、前向きに検討していく時期である。
- ・前向きな検討をしていく委員会であってほしい。
- ・策定委員会の開催回数を増やしてほしい。

【前回策定委員会以降の経過について】

- ・広域化に向けて、斑鳩町と一定の前向きな調整をしていたにも関わらず、なぜ急転直下で斑鳩町との協議が不調に終わったのか。

【建設候補地について】

- ・現建設候補地は、ハザードマップに抵触するところではないか。
- ・地元の理解と協力が不可欠である。
- ・現建設候補地は、当委員会の中で検討協議されて選ばれた場所ではない。
- ・地元への説明会等は、広域化が前提で行われており、奈良市単独となった今、地元の理解が進んでいるという実績を語る根拠としては乏しいように思う。広域でなくなった以上、現候補地で話を進めるのはナンセンスである。
- ・広域化の中で用地選定を行い、奈良市単独になり、横滑りのようにこの場所ありきで話を進めるのではなく、見直す、もしくは当委員会の中でしっかりとその辺を協議できる状況を作るべきではないか。
- ・とにかくいち早く進める必要があること、及び夢があるクリーンセンターをアピールすることも踏まえれば、現在の候補地がここまで自治会の協力も得られ始めているということであれば、まずはそこで頑張っていただきたい。
- ・単独で進めるということ、しっかりと地元と話をしてほしい。
- ・奈良市全域からの情報等に対して、常にアンテナを張り続けてほしい。

【今後の事業の進め方について】

- ・土地も含め具体的にどうしていくのか、市側からなんの提案もない。
- ・現時点で単独でいくのが市としての方針なのか。
- ・事業主体は市役所であり、使うのは市民であるので、市役所が方針を出すのが本来だと考える。
- ・様々な意見を集約し、納得できるかたちにしていくのが市役所の、市長の務めだと考える。
- ・脱炭素社会を掲げ、2050年にカーボンゼロを目指さないといけない。エネルギーを生み出すような夢を描いた施設の案を地元を示したら、前向きな方向へ変わるかもしれない。また、そういった社会を目指してほしい。
- ・これから土地を探すとかがああるとこうすると言っても、実際十数年経って現在の状況なので、できれば10年先にはもう建つよというくらいの目標で考えていかないと間に合わない。
- ・時代が変わり、清掃施設に対するイメージが随分変わった。最新の施設の視察に行くと、清掃工場というイメージもなく、臭いもない。また、付加施設の利用を推進していたり、そういった面を市の方で広報してほしい。
- ・炉自身にも注目して検討していかなければいけないと思う。
- ・嫌悪施設ではなく、エネルギーを増やす施設を作るんだとポジティブな方向で進めていったらいいのではと思う。
- ・どこに建てるにしても人が住んでいる。人を大切にしながらこの話を着々と進めてほしい。

委員からの主な質疑・意見に対する市の考え

- ・広域化については、最終的にはそれぞれの自治体が責任を持って判断するもの。現状、可能な限り精一杯の費用負担案を示してきており、今後、より詳細を詰めたものを一緒に考えていこうとしていたなかで、斑鳩町長の判断ということで最終的に離脱され、それ以上のことは知りえないのが実状。
- ・浸水対策について、他市の事例等を参考に検討を進めているが、まだ詳細なことは示せていない。
- ・本市の現有施設の逼迫状況及び県内の他自治体の動向や、各市町村の現有施設の更新タイミングの相違等を考えると、再度広域化を検討するのは時間的にも厳しく、奈良市単独となることを判断せざるを得ない。
- ・建設候補地の考え方については、奈良市内全体を見渡して、ある程度の面積、周辺の住居、あらゆる交通事情等、単独であっても広域であっても市として共通した認識である。
- ・限られた時間の中で、検討状況が一定進んでおり、地元とのコミュニケーションにも一定の進捗が図られている現候補地にて、引き続き単独でも検討を進めていくということは、合理的な一つの方策であると考え。
- ・一方、単独候補地について、もっと時間がかかってでも根本的に探すべきではないかという声が大半であれば、その声も無視できないものであると考える。
- ・他都市の先進事例にあるように、昨今の時代や環境の変化、または技術の進化により、もはやどこに建てるかが問題ではなく、どのような施設を建てるのか、ということに焦点を当てて議論していくべきではないかと考える。

資 料	<ol style="list-style-type: none">1. 次第2. 会場配席図3. 委員名簿4. 委員名簿新旧対照表5. クリーンセンター建設計画策定委員会規則6. 第59回グリーンセンター建設計画策定委員会資料（資料1、資料2）